

【厚木市】陸合東中学校が ISS 開始

8月30日、陸合東中学校長、PTA会長がISSに取り組む旨を市長ご報告されました。本中学校には、すでにISSとして認証されている清水小学校の卒業生が進学しており、以前から生徒から中学でもISSに取り組みたいという声があがっていました。今年、清水小学校がISSに認証された際に主戦力として頑張っていた6年生が中学3年生であることから、小学校での経験をもとに中学校においても積極的にISSを展開していくこととなりました。ISS認証センターであるJISCにも正式にISS着手の書簡をお送りくださり、正式にISS活動が始まりました。



市長を訪問したPTA会長と校長 (facebookより)

【横浜栄区】認証式への準備進む

8月30日、横浜市栄区において今後のSCの進め方及び認証式(10月5日予定)のについて打合せを行いました。栄区では、昨年度までのご担当者が異動になりました。そのため、新たなご担当者は、これまで他自治体の認証式等へご出席された経験もないなかで準備をすすめており、大変な面も多いかとおもいます。その一方で、認証をきっかけにこれまでの取組を振り返り、新たな一歩を踏み出すよい機会にしたいというビジョンをおもちで、そのための準備も進められています。



SCを盛り上げるポスターやのぼり

【鹿児島市】SC推進協議会・サーベイランス委員会、そして対策委員会事務局会議

9月3日、鹿児島市においてサーベイランス委員会及び

推進協議会が開催されました。どちらの会議においても、先月開催された松原市及び久留米市の現地審査について、取組の全体像及び現地審査の様子を写真や図などを使ってご報告されました。また、新たにDV対策委員会を設置された旨が報告されました。人口約60万人というSCに取り組んでいる自治体のなかで一番大きな規模の鹿児島市においては、まずは各対策委員会でモデル地区を設定し、そこから活動をスタートさせます。



写真は、南日本新聞に掲載されたものを転載

全ての会議の後には対策委員会事務局の懇親会が開催されました。鹿児島市ほどの規模になると、事務局担当課の方たちも日頃から接点が多いわけではないそうです。このような機会は情報交換・共有にも非常に役に立ちますし、今後の対策委員会の間の協働においてもこのつながりは生きてきますので、今後も折に触れてこのような機会をもたれることを期待しています。

【久留米市】認証式に向けて準備中！

9月3日鹿児島市を後にして、久留米市に向かい、今後のSCの進め方、認証式の準備等についてお打合せを行いました。久留米市は、先日内定通知が届き、現地審査でいただいた助言等を申請書に反映させると、本格的に認証式の準備です。秋はイベントも多く、これからの準備や調整も大変そうです。ガイドラインに示されている「認証式においては、国際的にSC推進に貢献するイベントを併せて実施することを強く推奨する」点に関しては、現地審査において韓国の自治体を多人数受け入れてくださったことをもって十分に満たしていると判断しました。

【亀岡市】9保育所・園、1小学校でISS開始

6日、亀岡市において、セーフコミュニティ推進協議会が行われ、それに続いて「セーフスクール取組宣言式」が行われました。

このたび、本市では9保育所(8公立保育所、1私立保育園)と1小学校において正式にISS活動に取り組むこととなり、保育所長・園長及び小学校長が、推進協議会委員の前で、ISS認証センター(JISC)に提出いただく「取

組着手の意思表示」の書簡にそれぞれ署名をし、共同で宣言を行いました。(写真下左) 宣言される先生方の背景には、子どもたちのハンドプリントによる虹やハードのボードが設置されて、彩りをそえました(写真下右)。



また、宣言に先立ち、保育園児による和太鼓の演奏(SCを通して子どもたちのケガが減った事例の一つです)があり、華やかさを添えました。

【松原市】市長及び対策委員会が台湾視察

10日、松原市長及び対策委員長、SC事務局が台湾台北市を視察しました。3つの認証コミュニティが松原市訪問団にSCの取組を説明してくださり、地域を案内してくださいました。各区とも平日にもかかわらず区長はじめキーパーソン(いずれの方もお仕事をお持ちで、ボランティアでSCに関わっています)が集まって下さいました。

まず、文山区は、市立動物園で取組の全体を説明く

ださった後、動物園を活用した安全教育の事例を紹介下さいました。その後、国内だけでなく海外でも有名なお寺にゴンドラで移動し、参拝者の安全などの取組を紹介下さいました。次に、台北市役所や台北101タワーなどがある信義区において、区内の取組をご説明いただき、その



後、自転車シェアリングとその安全に関する取組をみせていただきました。最後は、大同区で取組の説明を受けた後、川沿い・余暇の安全を見せていただきました。

いずれの区も住民が中心となってSC推進母体を設置しており、そのなかで行政は協働のパートナーとして側面的な支援をしています。そのため、今回の視察も住民の視点が多く感じられました。質疑応答の時間には、「認証を受けた後こそが大切だと思いますので、認証後はどのように取組を展開されたのか教えて下さい」など積極的に質問をされていました。

【JISC】新竹市東区(台湾)現地審査

9月12-13日にかけて台湾新竹市東区で現地審査が行われました。今回、審査を担当したのは、JISC 白石とパク・ナムス氏(韓国)でした。

当コミュニティは、新竹市(人口約40万人)の3つの区の一つ(人口約20万人)。2009年に地元の私立病院(キャセイグループ)の声かけによってSCの活動が始まりました。地元住民や企業が病院の声かけに応じ、



その活動が区の活動として広がり、区及び市行政を巻き込んできました。元ソーシャルワーカーの市長も、SCの概念に賛同され、SCのための予算を確保し、関連部署を各対策委員会(ワーキンググループ)の担当につけるなど全面的に支援をおこなってきました。今回の現地審査は、市単位ではなく、そのうちの一つの区の認証審査ですが、海外出張から戻ったばかりの市長が(3つの会議が待っているにもかかわらず)空港から一番に立ち寄ってくださったり、講評の際にも数々の公務の合間を縫って同席されたりするなど、トップの姿勢やSCへの思いを伺うことができました。

講評においては、民官のしっかりとした協働体制とその取組の多様性・柔軟性、人材の豊富さ(特にボランティアの活発さ)などについて



非常に高い評価を受けました。その一方で、「課題把握→取組の具体的な対象(ターゲット)設定→取組の企画・実践→評価」というロジックがみえにくいと指摘をうけ、改善に向けたアドバイスがありました。現地審査には、他のコミュニティも視察に訪れており、「現地審査は、形だけで終わると思っていたが、審査員は一つ一つの報告に鋭い視点でいくつも質問をされていてびっくりした」「いかにしっかりとデータとその分析を示さないといけないかがわかった」などと感想を述べていました。

【発行】

一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構
(問い合わせは下記ヘッダーの連絡先まで)